

千代田図書館

Check

ホームページに関するお詫びと全館休館のお知らせ

現在公開を停止している千代田区立図書館ホームページは、脆弱性が確認されたため、引き続き停止し、2018年3月14日(水)午前9時に、セキュリティを強化した新たなホームページとして、各種Webサービスを再開します。皆様にはご不便をおかけし、大変申し訳ございません。また、ホームページのリニューアルと図書館システム更新作業を行うため、千代田区立図書館は、3月4日(日)～13日(火)の間、全館休館します。ご理解のほどよろしくお願いたします。

全館休館期間：2018年3月4日(日)～3月13日(火)

- ・休館中の資料返却はブックポストをご利用ください。
- ・各種お知らせについては、日比谷図書文化館ホームページ(hibiyal.jp)、千代田区ホームページ(www.city.chiyoda.lg.jp)、千代田区立図書館Facebookなどでお伝えいたします。

※3月3日午後8時以降は、日比谷図書文化館ホームページも閲覧できません。中面ページで新しくなるWebサービスを一部お伝えします。



Illustration_Satoshi Ogawa

Information

展示ウォール

人気小説家がおすすめる 20世紀日本の傑作小説

1月29日(月)～4月21日(土)

小説の面白さを知ってもらうため、集英社の傑作小説大全『冒険の森へ』の編集委員で、作家の逢坂剛さん、大沢在昌さん、北方謙三さん、夢枕獏さんがおすすめる20世紀に日本で発表された小説を、パネルで紹介いたします。また、『冒険の森へ』収録作のほか、21世紀に発表した小説などをジャンル問わず展示し、貸し出します。

イベント

展示「神田一橋中学校の生徒による オリンピック・パラリンピックへの アクション」

1月29日(月)～3月3日(土)
9階=ミニ展示コーナー

オリンピック・パラリンピックをテーマにした、1年生の保健体育と3年生の英語の授業での制作物を、千代田図書館内に展示します。



▲おはなし会風景

イベント「和綴じ製本で 『読書ノート』を作ろう」

2月17日(土)10:10～12:40
9階=第1研修室 ※申込制(有料)

「お茶の水おりがみ会館」から講師を迎えて、読んだ本の書名や著者名、感想などを記録する「読書ノート」を和綴じ製本で手作りするワークショップです。

赤ちゃん向けおはなし会

2月8日(木)、3月22日(木)、4月12日(木)
11:00～11:30

10階=子ども室 ※申込不要
みんなで楽しめる絵本の読み聞かせやわらべうたなどを行います。お子さんと保護者だけでなく、妊婦さんもぜひお越しください。

情報探索講習会

「新しい検索機を使ってみよう！」

3月24日(土)14:00～14:20
10階=児童書コーナー検索機
3月26日(月)18:30～18:50
9階=コンシェルジュブース前検索機
※申込不要

3月14日から新しくなる検索機の使い方などを紹介します。

展示「共立女子大学生が考えた 神保町周辺活性化デザイン 計画提案展示2017」

3月14日(水)～4月21日(土)
9階=ミニ展示コーナー

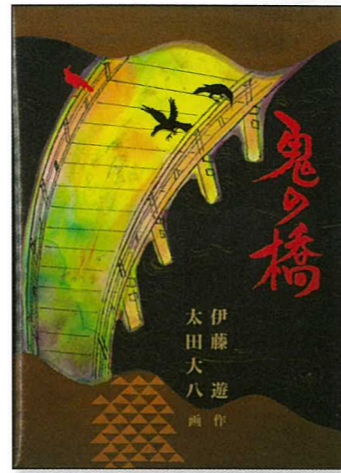
共立女子大学デザインコースの学生が、「神田神保町周辺地域の活性化」をテーマに調査し、考案・デザインしたプランを、パネルで展示します。

図書館からこの一冊

『鬼の橋』

伊藤遊 作、太田大八 画(福音館書店)

平安時代の京都、廃寺で妹と遊んでいた小野篁(おののたかむら)は、隠れ鬼の最中、大切な妹を事故でなくしてしまう。悲しみと後悔に暮れる篁は、妹が落ちた古井戸から冥界に落ちてしまった。鬼に連れられて橋を渡る篁を助けてくれたのは、三年前に亡くなった征夷大將軍、坂上田村麻呂だった。鬼も恐れる無敵の將軍として登場する坂上田村麻呂ですが、冥界へ行けず、永久に都を守る使命のために苦しむ姿が描かれています。ヒーローは、強く明るいものと信じていた子どものころ、その寂しげな姿は衝撃的でした。そんな將軍を救うため、篁が考え付いた大胆な方法が物語の終盤に語られます。私の一番好きな場面です。どんな作戦かぜひ読んでみてください。(児童担当・三木)



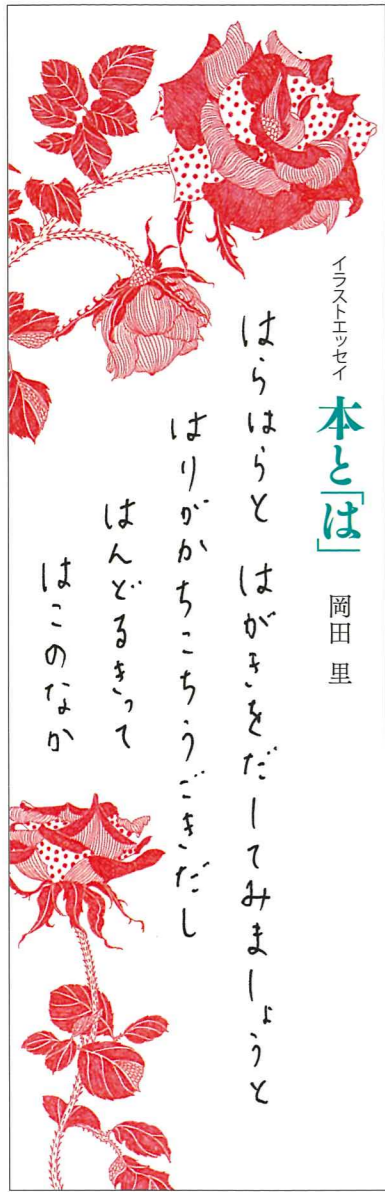
大正から昭和初期の図書館

千代田図書館の前身、一橋図書館時代と駿河台図書館時代の業務資料が近年発見され、「橋・駿河台図書館業務資料」として137点の資料を整理しました。日誌、閲覧日計簿、公文書類など、大正12年から昭和30年頃に作成された資料からは、当時の様子を具体的に読み取ることができます。

日本の図書館文化全般に関する1421人を収録した人物事典『図書館人物事典』が刊行されました。この事典には、明治41年から東京市立日比谷図書館に勤め、のちに館頭(市内各館を統括)となった今澤慈海も掲載されています。今澤の肖像として使われた写真は、昭和6年の読売新聞に掲載された今澤によるコラムを、当時の図書館員が図書館関連記事をクリックアップした切抜帳に貼ったものです。これまで知られていなかった今澤の肖像は晩年のものばかりでしたが、80年を経たいま、現役時代の姿を見られるようになり、このように図書館では、さまざまな歴史を語る上で大切な資料を整理・公開しています。

『図書館人物事典』(日外アソシエーツ、2017年9月)

一般図書館切抜帳(大正13年10月～昭和25年12月)より『読売新聞』(昭和6年4月9日)



イラストエッセイ

本とは

岡田里

ご利用案内

Facebook <https://www.facebook.com/lib.chiyoda>

千代田図書館

千代田区九段南1-2-1千代田区役所9・10F ☎03-5211-4289・4290

開館時間 月～金 ▶10:00～22:00 土 ▶10:00～19:00
日・祝・12/29～12/31 ▶10:00～17:00
※夏期は9:00開館

休館日 第4日曜日、1/1～1/3、特別整理期間
アクセス 東京メトロ東西線・半蔵門線、都営新宿線「九段下」駅 4・6番出口より徒歩5分

日比谷図書文化館

千代田区日比谷公園1-4 ☎03-3502-3340

開館時間 月～金 ▶10:00～22:00 土 ▶10:00～19:00
日・祝 ▶10:00～17:00

休館日 第3日曜日、12/29～1/3、特別整理期間

四番町図書館

千代田区四番町1 ☎03-3239-6357

開館時間 月～金 ▶9:00～20:00 土 ▶9:00～19:00
日・祝・12/29・30 ▶9:00～17:00

休館日 第1日曜日、12/31～1/3、特別整理期間

昌平まちかど図書館

千代田区外神田3-4-7 ☎03-3251-5641

開館時間 9:00～20:00 ※12/29・30は9:00～17:00
休館日 第2日曜日、12/31～1/3、特別整理期間

神田まちかど図書館

千代田区神田司町2-16 ☎03-3256-6061

開館時間 9:00～20:00 ※12/29・30は9:00～17:00
休館日 第3日曜日、12/31～1/3、特別整理期間

ちよだパークサイドプラザ区民図書室

千代田区神田和泉町1 ☎03-3864-8931

開館時間 月～土 ▶9:00～19:00 日・祝 ▶9:00～17:00
休館日 第3日曜日、年末年始、特別整理期間

千代田区男女共同参画センターMIW

千代田区九段南1-2-1千代田区役所10F ☎03-5211-8845

開館時間 月～金 ▶9:00～21:00 土 ▶9:00～17:00
休館日 日曜日、祝日、年末年始、特別整理期間



伝統と文化をもつ千代田の町名

千代田区には、伝統と文化を持った町名がたくさんあります。今回は、「千代田区町名由来板」から、図書館付近の町名の由来を紹介します。

◆図書館バックヤード◆

2018年3月14日(水)から、千代田区立図書館と日比谷図書文化館のホームページが統合して新しいホームページになります。また、同日から図書館システムと千代田Web図書館も新しくなります。
みなさまにはお手数をおかけしますが、再登録が必要なサービスがございますので、ご確認をお願いいたします。

- 各種Webサービス開設日時
2018年3月14日(水)午前9時
- 主なサービスの変更点
ホームページURL
<https://www.library.chiyoda.tokyo.jp>
※日比谷図書文化館ホームページのURL(hibiyal.jp)はなくなります。

マイページ
資料の利用状況確認や予約・貸出期間延長などの機能に加えて、次に読みたい本などを登録できるメモ機能や、返却日お知らせメールなどを設定できる機能が追加されます。
※すべての方のマイページ用パスワードが一度リセットされるため、3月14日以降にパスワードの再登録をお願いします。

メールマガジン「ちよびたメール」
主にイベント情報をお届けするメルマガに変わります。
※すべての方の「ちよびたメール」が一度リセットされるため、3月14日以降に再登録をお願いします。

貸出券の有効期限
新規作成日または更新日から2年間になります。

千代田Web図書館
電子書籍の貸出・閲覧ができるWeb図書館が新しいシステムに変わります。
※主に区内在住・在勤・在学の方のみ
【新URL】
<https://www.d-library.jp/chiyoda>

千代田区町名由来板

千代田区には、江戸開府以来、歴史に培われた伝統と文化をもつ町名があり、中には時代の変遷とともに、さまざまな理由から改めた町名もあります。それら歴史的意義のある町名や文化を保存・継承していくために、町名の由来を伝える案内板が、区内108か所に設置されています。由来板の一部には、千代田区にゆかりのある著名人が執筆した説明文もあります。ぜひ全文を読んで町の歴史に思いを馳せてみてください。

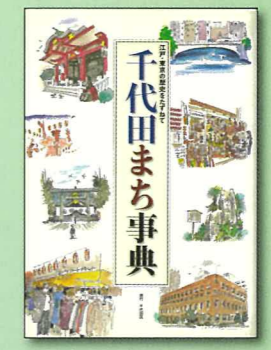
※今回紹介している町名の由来は、由来板の抜粋文です。

【千代田区にゆかりのある執筆者と執筆町名】(敬称略)
阿刀田高(永田町一丁目)、荒俣宏(麴町一丁目)、泉麻人(神田松枝町・北乗物町)、逢坂剛(神田神保町一丁目)、紀田順一郎(神田神保町二丁目・一ツ橋二丁目)、京極夏彦(九段一丁目)、田中優子(永田町二丁目)、童門冬二(有楽町)

■「千代田区町名由来板」に書かれている内容を、下記で読むことができます。

千代田区ホームページ「千代田区町名由来板」
【URL】<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/bunka/bunka/chome/index.html>

『千代田まち事典』(千代田区地域振興部)
所蔵資料番号：130482995



※現在は販売していません。

Spot 1 千代田図書館付近 九段一丁目

設置場所：九段北一丁目3番

幕府が江戸城に勤務する役人のための御用屋敷をつくる際、四谷御門の台地から神田方面に下る傾斜地に沿って石垣を築きました。その石垣が九層にも達したことから「九段」という通称が生まれました。当時の九段坂は、牛ヶ淵の崖沿いを通る勾配がきつい細道でした。一本北側を走る中坂は、この界隈では唯一の町屋が並び、御用屋敷に日用品を供給する賑やかな通りだったようです。この辺りには、江戸初期ごろより元飯田町の町名がつき、戯作者の曲亭(滝沢)馬琴が使っていた井戸や、幕府の蕃書調所などもありました。その後、幾多の変遷を経てから、関東大震災後の復興計画が行われ、昭和8年に町の区画整理が終わりました。町名も、飯田町一丁目、二丁目と、四丁目の一部を合併して九段一丁目となります。急な坂道だった九段坂は、拡幅・掘削されて勾配がゆるやかになり、市電が走るようになります。昭和40年中ごろまでは、電車が九段坂を上り下りする光景を見ることができました。



Spot 2 日比谷図書文化館付近 内幸町

設置場所：内幸町一丁目1番

この界隈には、江戸時代の初期から大名屋敷が置かれており、陸奥白河藩阿部家、薩摩鹿児島藩島津家、肥前小城藩鍋島家、大和郡山藩柳沢家、日向飫肥藩伊東家、石見津和野藩亀井家の上屋敷がありました。明治5年に、阿部家、島津家、鍋島家の上屋敷を合併して内山下町一丁目、柳沢家、伊東家、亀井家の上屋敷を合併して内幸町一丁目となります。その2つの町名は、山下御門、幸橋御門の内側に位置していたことに由来します。明治時代、内山下町一丁目には内務大臣官舎や鹿鳴館、帝国ホテルがあり、内幸町一丁目には東京府庁や社交クラブの東京倶楽部などがありました。昭和13年、区画整理により、内山下町一丁目と内幸町一丁目の東側が合併して新たに内幸町一丁目となり、内幸町一丁目の西側は内幸町二丁目となりました。かつては上流階級の社交場であったこの町は、戦後、多くの企業が名前を連ねるオフィスビルなどに姿を変えました。



Spot 4 昌平まちかど図書館付近 金澤町

設置場所：外神田三丁目4番(昌平童夢館)

かつてこの界隈は金澤町と呼ばれており、その由来は江戸時代に遡ります。江戸の大半を焼き尽くした明暦3年の大火を機に、幕府は江戸の都市計画を見直し、大名屋敷を上屋敷・中屋敷・下屋敷に分けるという政策を行いました。その際、加賀藩の前田家は、神田神社近くに上屋敷を拝領しました。加賀藩は、藩主の居城が金沢にあったことから「金澤藩」ともいわれていました。つまり町名の由来は、かつて加賀藩の藩邸があったことの名残です。前田家の上屋敷は、天和2年の火事で類焼し、幕府に没収されます。その翌年には湯島の職人や商人たちがそこに代地を与えられて移転してきます。そして、商人や職人の町として発展をつづけました。町内には多種多様な店があったようで、文政7年に書かれた『江戸買物独案内』には、「やけど妙薬」で知られた田村万兵衛、鼻紙袋や煙草入れを扱う津久田屋、瀬戸物問屋である玉川卯兵衛といった商人たちの名前が記載されています。



Spot 3 四番町図書館付近 四番町

設置場所：四番町5番地

江戸城に入った徳川家康が、城の守りを固めるために、この一帯に「大番組」と呼ばれる旗本たちを住まわせたことから「番町」という地名が生まれました。安政5年の日米修好通商条約の際に、幕府側の代表のひとりとして初代外国奉行だった井上信濃守清直も四番町に住んでいました。明治時代になると、中央政府に近く便利な場所だったために、華族や官吏の邸宅地となります。政治家の島田三郎や

首相を務めた若槻礼次郎の邸宅のほか、自由民権運動の指導者であった中江兆民が主宰した仏蘭西学会(のちに仏学塾と改称)もあり、新時代を担う若者たちの活気が満ちあふれていました。また、歌人の与謝野鉄幹・晶子夫妻をはじめとする多くの文人も暮らしていたことから、明治から昭和の激しく揺れ動いた時代を、鋭い視点で見つめた人々が四番町に集まっていたといえるでしょう。



Spot 5 神田まちかど図書館付近 神田司町二丁目

設置場所：神田司町二丁目9番地

江戸時代、現在の神田司町二丁目にあたるこの地域には、佐柄木町、新銀町、雉子町、関口町、三河町三丁目、三河町四丁目などがありました。雉子町には、『江戸名所図会』を親子三代にわたって完成させたことや、『東都歳事記』『武江年表』などで有名な斎藤月岑が住んでいました。また、斎藤家は代々、雉子町のほか5つの町の名主もつとめていました。明治5年、これらの町はそれぞれ正式な町名となりますが、昭和初期の区画整理の際にひとつに統合されることとなります。新しい町名の命名は、江戸の総鎮守として親しまれる神田神社の平田盛胤宮司に依頼され、「司」が縁起のよい文字であることから「司町」と名付けられました。こうして司町二丁目は、昭和10年、司町一丁目とともに誕生しました。昭和22年、神田区と麴町区が合併して千代田区が成立すると、司町二丁目は神田司町二丁目となり、現在まで親しまれています。

